

伝統の技で手掛ける 木の温もり溢れる家づくり



株式会社
都 都 -miyako- 建築

兵庫県姫路市飾磨区夢野町94番地



代表取締役 **都宮 崇**

×

ゲスト **布川 敏和**



兵庫県姫路市にある『都建築』の作業場には日々、「墨付け」や「刻み」など、昔ながらの大工仕事の光景が広がっている。そんな伝統建築の「品質」、そして機械による「効率性」を両立させた家づくりが、同社の真骨頂だ。都宮社長の家づくりに懸ける想いに、タレントの布川敏和氏が迫った。

——作業場から木の良い香りが漂ってきます！ 私も木工が好きなのですが、この香りは「無垢材」ならではの香りですね。

よくご存じですね！ おっしゃる通り、「無垢材」には加工された「プレカット材」にはない香りや温かみがあります。その分、扱うためには技術が必要なので、最近はプレカット材だけを使い、作業場は持たない工務店も増えていますね。私はそうした業界の流れを変えたいと思っているので、木材の加工から自分たちで行えるよう作業場を構えました。昔ながらの大工の技術力が当社の強みですし、そうした技術を次世代にも残したいですね。——大工としての誇りを感じるお言葉です。しかし、そうした技術を培う上では大変な修業が必要になるでしょう。都宮社長はこの道一筋に歩まれて？

ええ。余談ですが、私は12人兄弟に生まれ、男兄弟は全員が左官屋や瓦屋などの職人をしているんですよ。時には一

緒に仕事をすることもありますね。

——12人兄弟の職人一家……テレビで特集されそうな大家族です（笑）。

本当ですね（笑）。それもあってか、早くから「自立して自分で稼いでいかないと」という想いは強かったように思います。そのため中学卒業後、山口にいる父の知り合いの親方に弟子入りし、5年ほど住み込みで修業を積みました。その後、地元の姫路に戻り、工務店に勤務。そして15年前、24歳の時にまずは個人事業で独立し、地道に実績を積み重ねて、昨年4月に法人化を果たしたんです。

——厳しい大工の世界で、10代半ばから研鑽を積まれてきたわけですね。

はい。山口では昔ながらの建築技術を厳しく教わりました。親方から初めて小屋1棟を任された時は、とても嬉しかった反面、眠れないほど緊張したことを今でもよく覚えています。そして次に入った工務店で初めて、予め機械で加工され

たプレカット材による家づくりを目の当たりにしました。正直、「機械の早さには勝てない」と痛感しましたね。

——手仕事を重視される社長にとって、機械の効率の良さは明白だったと。

ええ。ただ、手仕事のほうが品質は高いです。だから当社では、プレカット材も使いつつ、重要な柱や梁などは自分たちの手で墨付け・刻みの加工を行うことを理想としています。もちろん、お客様のご意向にもよるのですが。

——そして品質と効率性を両立されているわけだ。今後はどのような展望を？

手掛けた家の仕上がりで信頼を得て、紹介から仕事が広がっていく——それが私の理想ですし、これまでもそうして仕事をいただけてきました。この先も高品質な家づくりを続けながら、今後10年で会社の確かな基盤を築きたいですね。

（取材／2018年3月）

After the Interview

「古き良き技術はとても大切ですが、時代と共に新たな技術が台頭するのは、どんな業界も同じ。双方の良さを正しく理解し、柔軟に取り入れる——そんな都宮社長の姿勢こそが、最も理想的なように感じましたね」 布川 敏和・談



▲は『都建築』で現在建築中の建物。上方へ凸型に湾曲する「むくり屋根」を採用しており、▶が屋根で重要な「破風板」の加工風景。



▲の「吸い付き桟」と「しゃち栓」が、二つの破風板を接合し、屋根状とする。▶はそんな屋根や柱を支える「梁」の墨付け風景だ。

